

2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	室内空気環境小委員会	主 査 名：柳 宇 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 空気環境運営委員会	委員長名：久野 覚 主 査 名：近藤靖史
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>【設置目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内空气中の化学物質、微生物、臭気など室内空気汚染物質全般について既往の設計法や維持管理基準を検討する。 ・新しい設計法、測定法の規準の提案や居住者のための指針を提案する。 <p>【2009 年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物アカスタ改訂 WG および浮遊微生物サンプリング法学会規準作成 WG を設置し、活動を行う。 ・微生物アカスタ (AIJES-A002-2005) 改訂に当たり、2005 年以降に公表された新しい知見を収集し、整理する。 ・浮遊微生物測定法に関する既往の文献をレビューし、学会規準策定のための骨子を決定する。 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有り</p> <p>柳宇 (東北文化学園大学)、池田耕一 (日本大学)、大場正昭 (東京工芸大学)、小竿真一郎 (日本工業大学)、鍵直樹 (国立保健医療科学院)、武廣絵里子 (鹿島建設)、湯懷鵬 (新菱冷熱工業)、野崎淳夫 (東北文化学園大学)、長谷川麻子 (熊本大学)、堀雅弘 (横浜国立大学)、光田恵 (大同工業大学)、山口一 (清水建設)、横山真太郎 (北海道大学)、吉澤晋 (愛知淑徳大学)、高塚威 (新日本空調)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物アカスタ改訂 WG ・浮遊微生物サンプリング法学会規準作成 WG 	
2009 年度予算	180,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 微生物・花粉による室内空気汚染とその対策 (2009 年 8 月)
講習会	1. アセトアルデヒド・トルエン・総揮発性有機化合物の汚染防止に関する規準・同解説 (定員 150 名)
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. アスベスト学会規準に関するシンポジウム (2009 年 5 月 22 日) (参加者数 40 名)</p> <p>2. 室内臭気の嗅覚測定法について (2009 年 7 月 3 日) (参加者数 40 名)</p> <p>3. 室内空気中におけるアセトアルデヒド・トルエン・TVOC に関するアカデミックスタンダード (2009 年 8 月 4 日) (参加者数 90 名)</p>

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	<p>1. 室内臭気の嗅覚測定法について意見公募を実施したが、意見はなかった。</p> <p>2. 「室内空気中におけるアセトアルデヒド・トルエン・TVOC に関するアカデミックスタンダード」について意見公募を行い、計 179 件（アセトアルデヒド 94 件、トルエン 40 件、TVOV45 件）の意見が寄せられ、現在全て対応した。また、意見公募期間の後、当学会木質構造運営委員会からの意見書に対しても回答した。</p>
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 微生物アカスタ改訂 WG 用途別建築物における微生物に関する近年の文献を収集し、議論を行った。 (達成度 → 80%)</p> <p>2. 浮遊微生物サンプリング法学会規準 WG 国内・海外の文献の収集を行い、現在進行中の ISO 関連基準について議論を行った。また、次年度の作業分担が決まり、予定通り作業を進む。 (達成度 → 80%)</p> <p>3. 室内空気環境小委員会 計画通り委員会活動を行った。上記の WG の活動内容を確認し、次年度新たに下記の 3WG を設置した。また、2010 年大会の前日行う予定の第 19 回空気シンポジウム『建築環境におけるウィルス・カビ等に関する最新の研究成果』を企画した。</p> <p>① ホルムアルデヒドアカスタ (AIJES-A001-2005) 改訂 WG ② 室内空気環境におけるウィルス感染対策検討 WG ③ 室内臭気規準改定 WG (達成度 → 90%)</p>
委員会活動の問題点・課題	委員構成に専門性のほか地方性も重要な要素としたが、交通費が著しく不足している。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。